



国土交通省
〒503-0813

木曾川上流河川事務所 揖斐川第二出張所
大垣市三本木2-651-1 TEL 0584-81-1034

■川と防災(安全・安心) 新年の始まりにあたって



揖斐川第二出張所の職員一同

新年あけましておめでとうございます。
昨年7月の長野県南木曾町、8月の広島県広島市において大規模な土石流が発生。また、9月には御嶽山噴火など、とりわけ土石災害による被害が顕著な年でした。一方、昨年の大垣における7月から8月の2ヵ月間の総降水量は平年の約2.6倍。中でも、8月9日から10日にかけて、岐阜県山間部を中心に非常に激しい降雨をもたらした台風11号では、揖斐川(万石地点)で戦後12番目の高水位を記録しました。この時、上流の徳山ダム・横山ダムが防災操作に当たり、下流域の水位低下に大きな効果を発揮しました。



台風11号による揖斐川の増水状況(万石地点)

気象庁は、台風や前線の停滞による大雨の発生について、長期的には既に地球温暖化の影響は現れており、この先ますます顕著になると警告しています。申し上げるまでもありませんが、国民の生命・財産を守ることは国の最も重要な使命です。国民一人一人が安全・安心に暮らしていくことができるよう、県、沿川市町村等としっかりと連携して、防災・減災・老朽化対策を進めていきたいと思っております。沿川地域の皆様のご支援・ご協力を心からお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

揖斐川第二出張所長 細野 貴司



ダムによる水位低下効果(大垣市川並地先)

■川と賑わい



平成26年11月3日 = 大垣市船町(水門川)

秋の季節を楽しみながら、大垣市中心部を流れる水門川を下る「水の都おおがきたらい舟」が、10月4日から11月16日までの土・日・祝日の12日間開催され、春と秋の両イベントを合わせ、総勢4千人弱の方々に乗船されました。

乗船客の男性は「思ったほど揺れず、周りの景色がとても綺麗で気持ち良かった」と語り、秋の水都を満喫していました。

■川と遊び

杭瀬川堤防において、近隣の園児や児童たちが堤防の斜面を利用した「堤防すべり」で遊びました。
10月30日(木)、大垣特別支援学校(大垣市西大外羽)の児童たちは、ソリを自分たちで運びながら堤防を駆け上がり、「楽しいな!」「一緒に滑ろうよ!」などと声を掛け合い、ソリに乗って勢いよく滑り降りていました。静かな田園地帯に、子どもたちの元気な笑い声が響き渡り微笑ましい情景でした。



平成26年10月30日 = 大垣市上笠(杭瀬川)

■川と環境



平成26年10月26日 = 輪之内町松内(揖斐川)

10月に「川と海のクリーン大作戦」が行われ、当出張所管内の大垣市、安八町、輪之内町で約2千人が参加。2トントラックに換算して、約3台分のゴミを集めていただきました。
地元のボランティアの方によって、こうした活動が行われていますが、本来、自分で出したごみは自分で適切な手段で処分をする。それが、美しい自然環境を後世に引き継ぐために、現在を生きる私たちの使命であると考えています。

■川と学習

『将来は建設業界で働きたい!』 地元中学生による職業体験学習



平成26年11月11日 = 大垣市大村(揖斐川)

大垣市立江並中学校(大垣市外濑)の2年生3人が、揖斐川で建設中の新橋(名称:大安大橋)を訪れ、11月11日、12日の2日間の日程で職場体験学習に臨みました。

生徒たちは、ヘルメット、長靴に着替え、朝の朝礼・ラジオ体操から1日が始まり、職長らによる安全指導打合せに立ち会うなど現場監督の気分を味わいました。また、橋の工事の流れを教材で学び、実際の工事現場でその状況を確認しながら、パソコンを使い、その成果をレポートとして纏めました。

参加した生徒の1人は「橋を作る部材の1つ1つの形状に、その意味や役割があることを知った。トンネル工事もX、Y座標で精度管理することを知り、建設業がそこまで細かく、シビアな仕事をやるものだとは思っていませんでした」と話してくれました。

水都の治水と水環境を考える【大垣市】



秋篠宮殿下（岐阜新聞提供）



八幡神社「大垣の湧水」（大垣市西外側町）

大垣市内において、「水」に関わるフォーラムや全国大会が開催され、関係者による熱い議論が交わされ、参加者らは熱心に耳を傾けていました。

10月7日（火）開催の「揖斐川治水フォーラム」では、明治期に揖斐川の治水で功績を残した金森吉次郎の足跡をたどり、今後の治水に向け意見を交わし、10月17日（金）開催の「全国水都ネットワークフォーラム」では、川や湖など水資源を観光に活かしている全国10都市が集い、今後の更なる観光振興や水辺の活用によるまちづくりについて意見交換を行いました。

また、10月27日（月）開催の「湧水保全フォーラム全国大会」では、秋篠宮さまを迎え、湧水を保全する重要性を訴え、湧水の魅力発信と保全活動のあり方について考えました。

挨拶に立った小川敏・大垣市長は「水都『大垣』は豊富で良質な地下水によって街が発展してきた。21世紀は真水の時代とも言われている。貴重な水資源を保全し、どう活用していくかを考えるきっかけになることを期待したい」と述べられました。

安八水害から38年 地域とダムに関わり学ぶ【安八町】



徳山ダム



ダムの説明を聞く参加者ら

安八町牧地区の区長ら18名は10月30日（木）、揖斐川上流の徳山ダム・横山ダムを訪れ、ダム内部の見学やダムの役割などを学び理解を深めました。

参加した男性の一人は「一言でスゴイ！ スケールの大きさに驚いた。我々の生活は、こういったダム等によって守られていると改めて痛感した」と話してくれました。

雑草もぐもぐ ヤギ「うメェ〜」【輪之内町】

仁木保育園（輪之内町下大樽新田）の年長園児34名は9月16日（月）、ヤギとのふれ合いイベントを楽しみました。

このイベントは、住民の堤防除草作業への理解を得ようと、当出張所が主催し、除草作業を請け負う加藤建設（株）（揖斐川町）が協力したものです。

この日、園児らはクイズを通して「働くヤギ」の話を聞いたり、ヤギに草を与えながら、ヤギとのふれ合いを体験しました。篠田怜生君は「草をいっぱい食べてくれて可愛かった」と喜び、橋口大地君は「ヤギを触ったらサラサラで気持ちよかったです」と話してくれました。

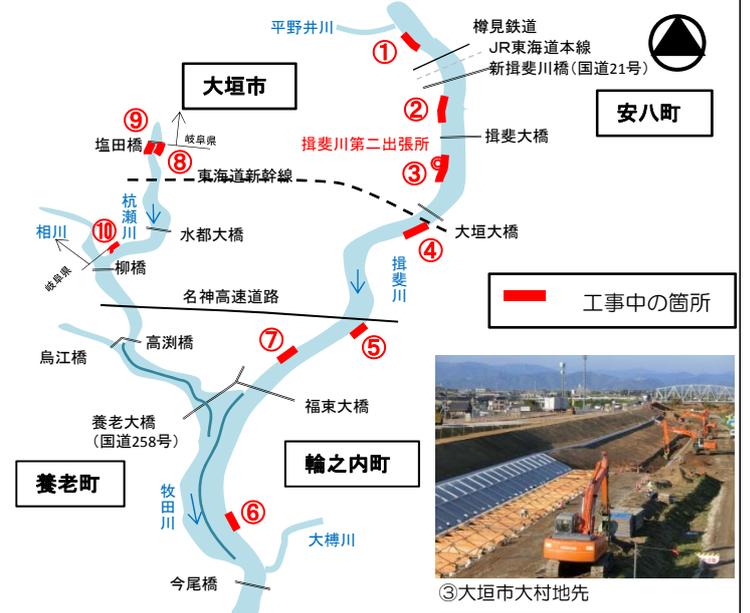


ヤギにエサを与える園児たち

工事本格化！ 揖斐川などの堤防補強工事進む

現在、揖斐川・杭瀬川では、河川堤防の補強工事が急ピッチで進められており、各工事現場では、ダンプトラックや建設用重機が慌ただしく動き回っています。

これからの季節、「伊吹おろし」と呼ばれる、冷たい季節風を受け、降雪も相まって、厳しい現場環境となりますが、工事の安全施工、建設労働者の安全衛生の確保及び第三者に対する安全を確保して、工事を円滑に進めていきたいと考えています。



⑥輪之内町大吉新田地先



③大垣市大村地先



④安八町牧地先

動物に関係した建設現場の道具名について

建設現場には、動物の名前に関係した多くの機械や道具が使われており、その一例を紹介します。「建設機械＝動物」と思えば、建設現場の見方が変わり、愛着が持てるような気がしませんか？

豆知識

モンキー = 「猿（サル）」

調整可能なレンチを「モンキー」と呼びます。これは、「CHARLES MONCKY」という発明者の名前からという説が有力ですが、他方で工具の開口部の形が、猿の頭の形状に似ているからだと言われています。



脚立 = 「馬（ウマ）」

手が届かない所の作業をする時に、4本脚の脚立のような作業台に乗って作業をします。これを「ウマ」と呼びますが、その形が馬に似ているからだと言われています。

